

⑥3 都市計画道路 門脇流留線

受賞機関 宮城県 東部土木事務所

キーワード 多重防御施設、津波避難路の幅員構成、CM業務の活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

津波減衰（多重防御施設）も担う嵩上げ道路整備。津波防災時を想定した構造採用や事業推進に当たっての各種取組（CM業務活用による体制確保や情報発信等）が評価された。

1. はじめに

門脇流留線は、石巻市の市街地を東西に横断する全長約12.9kmの都市計画道路である。

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けたことから、宮城県では、本路線を盛土構造として設計し、背後の市街地・住宅地の津波被害軽減を図る多重防御施設と位置づけて整備を行った。

本事業は、本路線のうち7.9kmの区間について、平成24年度から復興交付金を活用して整備を進め、令和4年3月24日に全線が開通した。



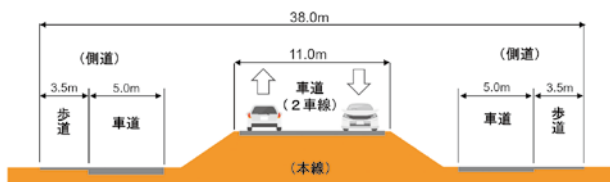
門脇流留線開通式の様子（令和4年3月24日）

2. 事業の概要

平成23年に発生した東日本大震災を踏まえて、本路線は津波避難路として計画された。

宮城県では、津波避難路の幅員構成について独自の基準を設けており、大規模災害発生時における消防・救助活動を想定し、路側に緊急車両を停車させた場合等においても、避難車両のすれ違いを可能とする幅員を確保することとしている。本基準に基づき、門脇流留線の幅員構成は、車道幅員11.0mを確保した設計としている。

本路線の地域は、人家連担地区であり、上下水道・電気など様々なライフラインの整理が必要であるとともに、周辺では多数の復旧・復興事業が展開しており、関係機



門脇流留線周辺の標準断面

関との調整など各種マネジメントが重要であったことから、CM業務の活用により事業進捗の効率化を図った。

また、国や市と協同して調整会議を定期的で開催し、復興事業に関する苦情・要望など関係者で共有するとともに、復興事業の紹介や工事に関するお知らせについて、広報誌などを通して積極的に市民に発信し、安全・安心を確保しながら円滑に事業を進めるための取組を継続した。

3. 事業の成果

本路線の開通により、これまで貨物車と乗用車の交通が混在していた仙台塩釜港（石巻港区）臨港道路において、一般交通の大部分が本路線へ転換されたことにより、物流の効率化や交通事故防止に寄与している。

また、中心市街地の国道398号に集中していた一般交通についても、本路線に分散されたことで、市街地の渋滞緩和効果も現れている。



門脇流留線周辺の空撮写真

4. おわりに

本路線の沿線には、土地区画整理事業によって集約された多数の企業のほか、石巻南浜津波復興祈念公園や石巻魚市場などの施設が立地している。今後、防災面の強化のみならず、産業・観光といった様々な面において、地域の復興に資する道路として活用されることを期待したい。

賛助会員 遠藤興業(株)、(株)奥村組、(株)橋本店、(株)福田組、(株)横河ブリッジ、若生工業(株)、ライブディック(株)